



Title	尾瀬の動物相
Author(s)	斎藤, 晋; Saitou, Susumu; 金杉, 隆雄 他
Citation	低温科学, 80, 353-356
Issue Date	2022-03-31
DOI	https://doi.org/10.14943/lowtemsci.80.353
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84979
Type	departmental bulletin paper
File Information	23_p353-356_LT80.pdf



尾瀬の動物相

斎藤 晋¹⁾, 金杉 隆雄²⁾, 茶珍 護²⁾, 峰村 宏³⁾

2021年10月2日受付, 2021年12月17日受理

尾瀬には多様な動物が生息し, これまで動物相に関して多くの調査が行われてきた. 尾瀬の昆虫, 魚類, 爬虫類・両生類, 鳥類, 哺乳類についての概要をまとめた.

Fauna of Oze region

Susumu Saitou¹, Takao Kanasugi², Mamoru Chachin², Hiroshi Minemura³

A variety of animals inhabit Oze region, and many studies have been conducted on fauna. This report is given a broad overview about fauna of Oze region from the existing literature.

キーワード: 尾瀬, 哺乳類, ニホンジカ, 昆虫類, 文献調査

Oze region, mammals, *Cervus nippon*, insects, literature search

1. 昆虫類

尾瀬の昆虫に関する調査は, 朝比奈 (1934) のカラカネイトトンボ *Nehalennia spciosa* (Charpentier, 1840) の報告や内田 (1934) や高木 (1936) の昆虫目録など 1930年代からはじまっている. これ以降 1950年代~1980年代にかけて尾瀬ヶ原におけるトンボ類やチョウ類などの記録が散見され, トンボ類やチョウ類, コウチュウ類などを中心に調べられてきた.

まとまった調査としては, 1950年から1952年に第1次の総合学術調査が行われ, 昆虫類ではハチ目47種 (うち30種は種未確定), コウチュウ目 (食肉亜目57種,

多食亜目310種, 水生甲虫類34種), アミメカゲロウ目7種, カメムシ目131種, トンボ目35種, カワゲラ目7種, トビケラ目6種, バッタ目31種, トビムシ目59種が報告された (尾瀬ヶ原総合学術調査団編, 1954). その後1977年から1979年に行われた第2次総合学術調査では, カマアシムシ目3種, カゲロウ目21種, トンボ目44種, バッタ目11種, 同翅亜目87種, 異翅亜目51種, トビケラ目37種, ハエ目 (ユスリカ科4種, ハエ類81種), コウチュウ目 (ハネカクシ科38種, ハムシ科24種, ゴウムシ上科62種, その他の甲虫類61種) などが記録されている (Hara et al., 1982). さらに1994年から1996年に行われた第3次総合学術調査では昆虫相としてアリ類 (ハチ目) 11種, オサムシ科 (コウチュウ目) 27種, アリヅカムシ (コウチュウ目ハネカクシ科アリヅカムシ亜科) 23種, トビムシ類 (トビムシ目) 134種, カマアシムシ類 (カマアシムシ目) 20種, ユスリカ科 (ハエ目) 73種などが調べられており, この他に受粉生態学的研究として訪花性のハチ類やハナアブ類が記録されている (尾瀬総合学術調査団編, 1999). 尚, ユスリカ科については2000年以降に分類学的な再検討がなされており (小林, 2010; 山本, 2010), 山本・山本 (2014) の目録に合わせると70種に整理される.

上記の総合学術調査団以外にも群馬県尾瀬保護専門委

責任著者

斎藤 晋

群馬県高崎市

Takasaki, Gunma Pref., 370-3102 Japan

e-mail: saitos@yellow.plala.or.jp

1) 群馬県立女子大学名誉教授

2) 群馬県立ぐんま昆虫の森

3) 群馬県自然環境調査研究会

1 Gunma Prefectural Woman's University, Gunma, Japan

2 Gunma Insect World, Gunma, Japan

3 Gunma Prefecture Natural Environment Research Group, Gunma, Japan

員や福島県尾瀬保護調査会委員等による調査の中で少ないながら昆虫類もみられる。

尾瀬をタイプロカリティとして記載された昆虫類としてはオゼイトトンボ *Coenagrion terue* (Asahina, 1949) やオゼナガウンカ *Stenocranus ozenumensis* Ishihara, 1952 をはじめ, 第2次尾瀬総合学術調査報告書ではザオウンカ *Kelisia asahinai* Y.Hori, 1982, オゼクワキヨコバイ *Pagaronia shibutsuana* Y. Hori, 1982, オゼフタテンヨコバイ *Epiacanthus ozegaharensis* Y. Hori, 1982, アサヒナコマルガムシ *Anacaena asahinai* M. Sato, 1982, オゼチビマルハナノミ *Cyphon ozensis* M. Sato, 1982 が記載されている。この他にもオゼキイロアブ *Atylotus ozensis* Hayakawa, 1983, イシハラシギゾウムシ *Curculio ishiharai* Notsu, 1994 などの記載があり, 近年においてもヒメトビケラ科ハゴイタトビケラ属の一種 *Oxyethira ozea* Olah et Ito, 2013 やカスミカメムシ科フタスジカスミカメ属の一種 *Stenotus hasegawai*, Yasunaga, Akagi and Nagashima, 2017, オゼマダラモンヌカカ *Monohalea ozeana* Kanasugi, 2019 などが確認されている。

2. 魚類

斎藤 (1993) は尾瀬総合学術調査の第1次から第3次などをもとに, イワナ *Salvelinus leucomaenis* Richardson, 1836, アメマス *S. leucomaenis leucomanis* (Pallas, 1814), ヒメマス *Oncorhynchus nerka* Walbaum, 1792, ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* Cantor, 1842 など10種が記載されていること, これらの中には放流された種が含まれることを報告している。さらに, 尾瀬ヶ原ではイワナ, ヤマメ *Oncorhynchus masou masou* (Brevoort, 1856), アブラハヤ *Rhynchocypris lagowskii steindachneri* Sauvage, 1883, ギンブナ *Carassius auratus langsdorffii* Temminck et Schlegel, 1846, ドジョウの5種とウグイ *Tribolodon hakonensis* (Günther, 1877) が生息するかも知れないと記している。

尾瀬ヶ原の川でイワナやヤマメを見かけることがあるが, 片山 (2008) によればこれら2種も漁協により長年, 放流されていたようである。

3. 爬虫類・両生類

爬虫, 両生類についての報告は少ない。木村ほか (2008), 菅原ほか (2010), 斎藤 (1991) などによると爬虫類ではトカゲ目のシマヘビ *Elaphe quadrivirgata* (Boie, 1826),

ジムグリ *E. conspicillata* (Boie, 1826), ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus* (Boie, 1826) などが, 両生類はサンショウウオ目のアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* (Boie, 1826), クロサンショウウオ *Hynobius nigrescens* Stejneger, 1907, トウホクサンショウウオ *H. lichenatus* Boulenger, 1883 と流水域に生息するハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn, 1782) の4種, カエル目はアズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* Boulenger, 1883 ヤマアカガエル *Rana ornativentris* Werner, 1903, タゴガエル *R. tagoi* Okada, 1928, ツチガエル *Glandirana rugosa* (Temminck et Schlegel, 1839) など7種が確認されている。

4. 鳥類

尾瀬地域の鳥類に関する文献から生息記録があるのは15目37科118種が確認されている (福島県, 2008)。初夏のころ, ブナ林ではシジュウカラ *Parus minor* Temminck & Schlegel, 1848 の鳴声が聞かれる。ほかにコガラ *Poecile montanus* (Conrad von Balenstein, 1827) やヤマガラ *Sittiparus varius* Temminck & Schlegel, 1848 の声も聞かれ, また稀にウグイス *Horornis diphone* (Kittlitz, 1830) やオオルリ *Cyanoptila cyanomelana* (Temminck, 1829) の声も聞かれる。森の上空を鳴きながら飛んでいるのは, ツツドリ *Cuculus saturatus* (Blyth, 1843), ホトトギス *C. poliocephalus* Latham, 1790 やジュウイチ *Hierococcyx hyperythrus* (Gould, 1856) などである。カケス *Garrulus glandarius* (Linnaeus, 1758) の大きな声もときおり聞かれる。

北沢ほか (1954) は, 森内の鳥類の摂食場所を明らかにしている。これによると, ブナ林では, 上部からノスリ *Buteo japonicus* Temminck & Schlegel, 1844 とトビ *Milvus migrans* (Boddaert, 1783), フクロウ *Strix uralensis* Pallas, 1771, カケス, オオルリ, コサメビタキ *Muscicapa dauurica* Pallas, 1881, コゲラ *Dendrocopos kizuki* Temminck, 1836, トラツグミ *Zoothera dauma* (Latham, 1825), アカハラ *Turdus chrysolaus* Temminck, 1831, キジバト *Streptopelia orientalis* (Latham, 1790), シジュウカラ, ツツドリ, ホトトギス, ジュウイチ, コガラ, エナガ *Aegithalos caudatus* (Linnaeus, 1758), アオゲラ *Picus awokera* Temminck, 1836, ウグイス, トラツグミ, アオジ *Emberiza spodocephala* Pallas, 1776, ノジコ *E. sulphurata* Temminck & Schlegel, 1848 が利用している。

また, 針葉樹林では上部から, ホシガラス *Nucifraga caryocatactes* (Linnaeus, 1758), キクイタダキ *Regulus regulus* (Linnaeus, 1758), サメビタキ *Muscicapa sibirica*

Gmelin, 1789, シジュウカラ, ヒガラ *Periparus ater* Linnaeus, 1758, キビタキ *Ficedula narcissina* (Temminck, 1836), アカゲラ *Dendrocopos major* (Linnaeus, 1758), ウグイス, ウソ *Pyrrhula pyrrhula* Linnaeus, 1758, メボソムシクイ *Phylloscopus xanthodryas* (Swinhoe, 1863), ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* (Pallas, 1773), コマドリ *Luscinia akahige* Temminck, 1835, ミソサザイ *Troglodytes troglodytes* (Linnaeus, 1758) が利用している。

なお, 山ノ鼻付近ではイワツバメ *Delichon urbica* (Linnaeus, 1758) やハリオアマツバメ *Hirundapus caudacutus* (Latham, 1802) もみられる。

5. 哺乳類

尾瀬の哺乳類については徳田 (1954) が, ヒメヒミズモグラ (ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, 1886), ヒメネズミ *Apodemus argenteus* (Temminck, 1844), アカネズミ *A. speciosus* (Temminck, 1844), クマ (ニホンツキノワグマ *Ursus thibetanus japonicus* Schlegel, 1857), カモシカ (ニホンカモシカ *Capricornis crispus* (Temminck, 1844)), キツネ (ホンドギツネ *Vulpes vulpes japonica* Gray, 1868), タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834), アナグマ (ニホンアナグマ *Meles anakuma* Temminck, 1844), テン (ホンドテン *Martes melampus melampus* (Wagner, 1841)), イタチ (ニホンイタチ *Mustela itatsi* (Temminck, 1844)), オコジョ (ホンドオコジョ *Mustela erminea nippon* Cabrera, 1913) ムササビ (ホオジロムササビ *Petaurista leucogenys* Temminck, 1827), モモンガ (ニホンモモンガ *Pteromys momonga* Temminck, 1844), リス (ニホンリス *Scirus lis* Temminck, 1844), ヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845), ノウサギ (ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck, 1844) が生息し, シカ (ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck, 1838), イノシシ *Sus scrofa* Linnaeus, 1758 はいないと記している (() 内に現在用いられている和名等を付した)。

野原 (2012) は福島県 (2008) をもとに, 32 種が確認されていること, 地域の特徴を示す種として, ヒメネズミ, ヤチネズミ *Eothenomys andersoni* (Thomas, 1905) ホンドオコジョを挙げている。

昭和 60 年代 (1985) からニホンジカ (以下シカ) が尾瀬地域に生息するようになり (内藤・木村, 1998), 以後シカによる植生のかく乱や食害等について多くの報告がなされている (内藤・木村, 1996, 2000; 斎藤ほか, 2004, 2005 など)。これらによると, 湿原のかく乱や食

害の度合い, 範囲などは年によって異なるが, シカによる影響は現在 (2021 年) まで継続して確認されている。

シカは林縁を好む (川村, 1957; 丸山, 1981; Takatsuki, 2003) ことが指摘されているが, 尾瀬ヶ原とその周辺は森林に囲まれた湿原や川があり, 溪畔林も発達している。合わせて食物となる植物, 生活の場となる森林や林縁などが多く (斎藤ほか, 2020), シカにとっては生息しやすい条件が揃っているのかも知れない。

また, イノシシも 2011 年にヨシッポリ田代で白骨化した死骸が確認されている (橋本, 2013), 2012 年に背中アブリ田代でイノシシと思われる生活痕が確認されている (斎藤ほか, 2014)。

引用文献

- 朝比奈正二郎 (1931) カラカネイトトンボに就いて. 昆虫, **8** (1), 54-57.
- Asahina S. (1949) New dragonflies from Japan (Odonata). *Insecta Matsumurana* **17** (1), 28-34.
- 福島県 (2008) 尾瀬地域自然環境調査業務報告書. 51pp.
- Hara H., S.Asahina, Y.Sakaguchi, and N.Yamagata (eds) (1982) *Ozegahara: Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan*. 456pp. Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo.
- 橋本幸彦 (2013) 尾瀬の大型哺乳類 X. 尾瀬の自然保護, **35**, 27-29.
- Hayakawa H. (1983) Description of *Atylotus ozensis* n. sp. from Honsu Island, Japan (Diptera: Tabanidae). *Japanese Journal of Sanitary Zoology*. **34** (3), 235-239.
- Hori Y. (1982) The Homoptera - Auchenorrhyncha of the Ozegahara moor. In: Hara, H. et al. (eds) *Ozegahara: Scientific Researches on the Highmoor in Central Japan*: 335-346. Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo.
- Ishihara T. (1952) Delphacidae of Oze, Honshu, Japan. *Insecta Matsumurana* **18** (1-2), 35-37.
- Kanasugi T. (2019) Discovery of predaceous midge of the genus *Monohelea* Kieffer, 1917 (Diptera: Ceratopogonidae) from Japan with descriptions two new species. *Japanese Journal of Systematic Entomology* **25** (1), 75-79.
- 片山満秋 (2008) 尾瀬山ノ鼻地区における生活排水の流水に及ぼす影響について 魚類・尾瀬の自然保護 尾瀬国立公園誕生記念号, 77-81.
- 川村俊蔵 (1957) 奈良公園のシカ. 日本動物記, 1-165 光文社.
- 木村吉幸, 菅原宏理, 内藤俊彦 (2008) 尾瀬地域の両生・爬虫類. 尾瀬の保護と復元, **28**, 21-29.

- 北沢右三, 倉沢秀夫, 高田武夫 (1954) 尾瀬ヶ原地方の動物生態学的研究. 尾瀬ヶ原, (尾瀬ヶ原総合学術調査団編):625-680. 日本学術振興会, 東京.
- 小林貞 (2010) 主要種への検索 (科への検索, 亜科への検索, イソユスリカ亜科, ケブカユスリカ亜科, モンユスリカ亜科, ヤマユスリカ亜科, オオヤマユスリカ亜科). 図説日本のユスリカ, (日本ユスリカ研究会編):26-95. 文一総合出版, 東京.
- 丸山直樹 (1981) ニホンジカ *Cervus nippon* の季節移動と集合様式に関する研究. 東京農工大学農学部学術報告, **23**, 1-85.
- 内藤俊彦, 木村吉幸 (1996) 尾瀬のニホンジカについて. 尾瀬の保護と復元, **22**, 89-94.
- 内藤俊彦, 木村吉幸 (1999) 尾瀬のニホンジカ. 尾瀬の総合研究, (尾瀬総合学術調査団 編):725-739. 尾瀬総合学術調査団, 前橋.
- 内藤俊彦, 木村吉幸 (2000) 福島県域尾瀬におけるニホンジカの植生攪乱状況. 尾瀬の保護と復元, **24**, 33-43.
- 野原精一 (2012) 尾瀬の自然環境の概要. 低温科学, **70**, 9-20.
- Notsu Y. (1994) Two new species of the genus *Curculio* from Japan (Coleoptera: Curculionidae). *Transaction of Shikoku Entomological Society*, **20** (3-4), 265-270.
- Olah, J and T. Ito (2013) Synopsis of the *Oxyethira flavicornis* species group with new Japanese *Oxyethira* species (Tricoptera, Hydroptilidae). *Opuscul Zoologica Budapest*, **44** (1), 23-46.
- 尾瀬ヶ原総合学術調査団編 (1954) 尾瀬ヶ原. 841pp. 日本学術振興会, 東京.
- 尾瀬学術調査団編 (1999) 尾瀬ヶ原の総合研究. 尾瀬学術調査団, 前橋.
- 斎藤晋 (1991) 尾瀬の有尾目相とハコネサンショウウオ幼生の体長組成. 尾瀬の自然保護, **14**, 1-6.
- 斎藤晋 (1993) 尾瀬ヶ原の魚類相とギンブナ個体群. 尾瀬の自然保護, **16**, 1-4.
- 斎藤晋, 片山満秋, 峰村宏 (2004) 尾瀬の大形哺乳類第1報. 尾瀬の自然保護, **27**, 43-47.
- 斎藤晋, 峰村宏, 片山満秋 (2005) 尾瀬の大形哺乳類II. 尾瀬の自然保護, **28**, 68-73.
- 斎藤晋, 峰村宏, 高橋あかね (2014) 尾瀬の大形哺乳類XI. 尾瀬の自然保護, **36**, 27-31.
- 斎藤晋, 峰村宏, 茶珍護, 金杉隆雄 (2020) 尾瀬の大形哺乳類XIX. 尾瀬の自然保護, **42**, 7-9.
- Sato M. (1982) The Coleoptera of the Ozegahara moor. In: Hara, H. et al. (eds) *Ozegahara Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan*: 379-408. Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo.
- 菅原宏理, 木村吉幸, 内藤俊彦 (2010) 尾瀬地域の両生・爬虫類. 尾瀬の保護と復元, **29**, 57-68.
- 高木三郎 (1936) 尾瀬, 奥日光甲蟲類目録. 昆虫 **10** (4), 189-206.
- Takatsuki, S. (2003) Use of mires and food habits of sika deer in the Oze area central Japan. *Ecological Research*, **18**, 331-338.
- 徳田御稔 (1954) 尾瀬周辺の哺乳類. 尾瀬ヶ原, (尾瀬ヶ原総合学術調査団編):681-683. 日本学術振興会, 東京.
- 内田一 (1934) 尾瀬地方採集昆虫目録. 昆虫 **8** (4-6), 237-241.
- 山本優 (2010) 主要種への検索 (エリユスリカ亜科, ユスリカ亜科). 図説日本のユスリカ (日本ユスリカ研究会 編): 96-259. 文一総合出版, 東京.
- 山本優, 山本直 (2014) Chironomidae ユスリカ科. 日本昆虫目録, 第8巻第1部 (日本昆虫目録編集委員会 編): 237-362. 日本昆虫学会, 東京.
- Yasunaga T., S. Akagi and S. Nagashima (2017) Taxonomic review of the mirine plant bug genus *Stenotus* Jakovlev in Japan adjacent regions in Asia (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Mirinae). *Insect Systematics & Evolution*, 1-39. DOI10.1163/1876312X-000021